

事業の背景・目的

「渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画」に基づく湿地再生により復元される湿地環境を保全するため、既に侵入している外来植物の除去活動を実施するほか、外来魚類の駆除による在来魚の生息域拡大を図ることで、将来的にコウノトリ・トキが採餌し営巣することもできるような湿地生態系の保全・再生を図るとともに、渡良瀬遊水地の普及啓発に資するガイドの養成を行う。

【事業の目的】 渡良瀬遊水地における良好な湿地環境の保全、湿地保全活動の普及啓発に資するガイドの質の向上

事業の内容

渡良瀬遊水地第2調節池において、外来種駆除事業及び普及啓発事業を実施した。

事業① 渡良瀬遊水地第2調節池外来種駆除事業

・専門家指導のもと、関係機関・団体や企業、ボランティアの協力を得て、市民参加型の湿地保全活動（ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦）を実施

【5/18, 7/13, 12/1 参加者1,100人 ※中止10/26, 2/22】

・特定外来生物を駆除し、在来魚や水生生物の増加を目的とし、地元漁協の協力のもと外来魚駆除活動（おさかなワイワイ大作戦）を実施

【6/16 参加者200人】



事業② 渡良瀬遊水地普及啓発事業

・渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会を活用したガイド活動を実施（市内小中学生・一般向け）

【ガイド実績34件、ガイド人数1,910人】

・ガイドの育成及び質の向上を図るため、無料の自然観察会（年4回）、視察研修を実施

【自然観察会4/8, 6/10, 10/14, 2/10

視察研修（徳島県鳴門市）1/29～31】

・自主事業としてヨシ灯り展の開催【8/24～25】



得られた成果

セイタカアワダチソウ等の外来植物を選択的に除去することで、昨年度と同様に渡良瀬遊水地に生息する希少種（トネハナヤスリやノウルシ、ワタラセツリフネソウ等）が広範囲で確認された他、活動による土壌攪乱により、イヌセンブリやミゾコウジュ等も確認された。また、外来魚駆除活動では、地引網によりブルーギルなど約1,100匹の外来魚を駆除した。この際、ギンブナ、オイカワ、モツゴ等の在来魚が約900匹確認された（その後の台風19号による大雨により水生生物量は減少）。令和2年3月現在、千葉県野田市放鳥コウノトリ「ひかる」と徳島県鳴門市生まれ「歌」のペアリングが確認されており、これまでの活動が多様な生きものが生息する貴重な湿地環境の再生に寄与しているものと考えられる。

また、渡良瀬遊水地エコツーリズムガイド協会では、渡良瀬遊水地のヨシを活用したヨシ灯り展を実施した。昨年度から規模を拡大し、計500人の見学者を得た。